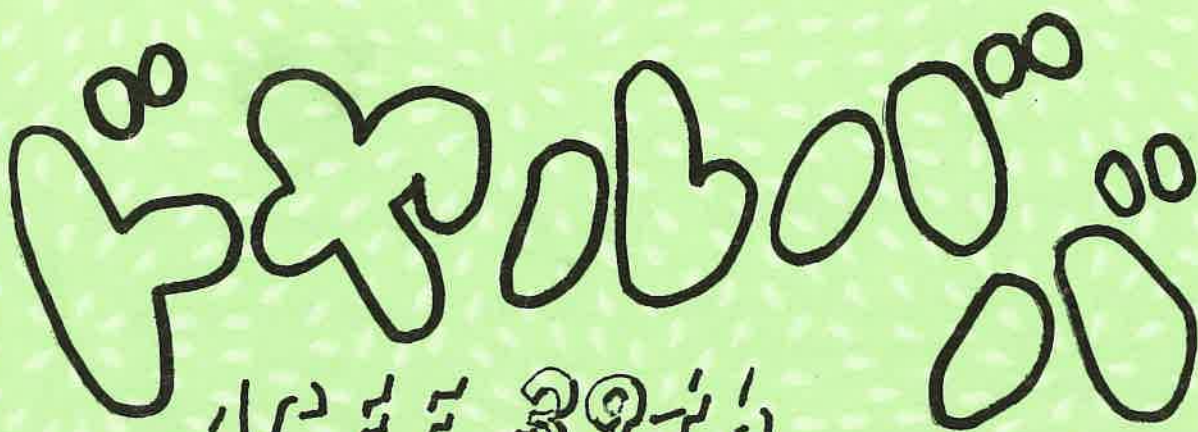
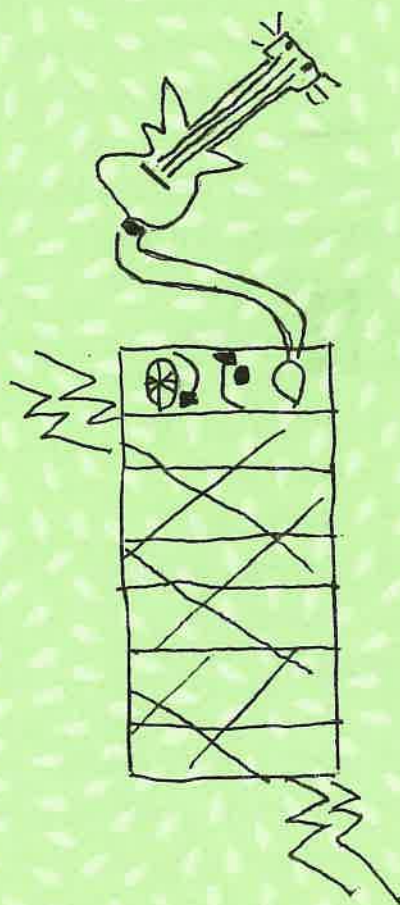
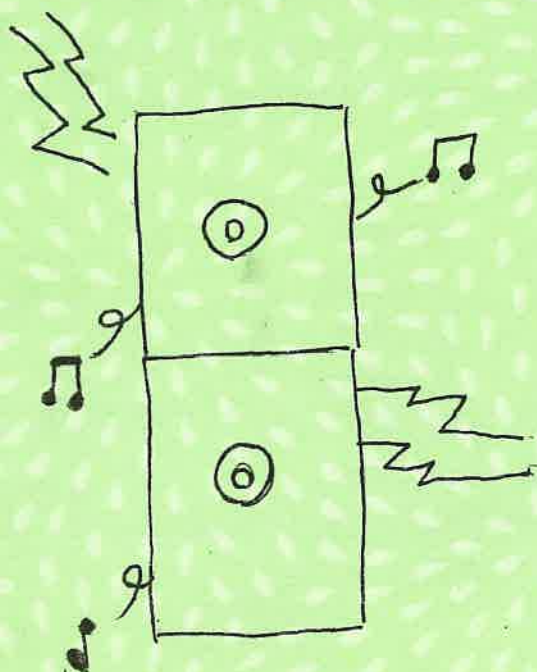




1557 3944

2010 7.28 ~ 8.9



ACEFとBDPはバングラデシュの基礎教育のために共働しています。

BDP

Basic Development Partners

1990年にSEFとして発足した団体が1999年にBDPと名称を改めNGO登録をしました。

貧しい家庭の子どもと女性を対象に、主に教育、健康、緊急支援などの活動をしています。

今まで学校に行ったことのない子どもや、ドロップアウトしてしばらく学校に行っていなかった子どもも受け入れ、働きながら通える寺子屋学校を開き、一人でも多くの子どもたちに、教育の機会を与えたいと願っています。現在6地域に75校の小学校と、2校の職業訓練校があります。

主な活動

- ① 寺子屋幼稚園
- ② 寺子屋小学校
- ③ 卒業生に奨学金
- ④ 職業訓練校
- ⑤ 保険衛生教育
- ⑥ 文化活動(音楽・舞踊)
- ⑦ 災害緊急支援

活動地域

- ① ダッカ市ミルプール
- ② ガジプール県プーバイル
- ③ ジャマルプール県ジャマルプール
- ④ ポリシャル県カティラ
- ⑤ ジャマルプール県ボクシガンジ
- ⑥ ネットロコナ県ネットロコナ

ACEF

Asia Christian Education Fund

1990年設立。2004年に特定非営利活動法人(NGO法人)の認証。

日本各地の学校、幼稚園、教会、団体、有志などにご協力いただき、バングラデシュに寺子屋(小規模小学校)を贈る運動をしています。

また、アジアの諸問題に積極的に関わる青年が育つことを願って活動しています。

アジアの問題を自分自身の問題として捉えるということは、今ある私たちの生活を「これでよいのか」と問うことにもつながります。私たちがアジアに関わるのは、まず私たち自身が変わられ、日本をアジアを新しい目で見つめ直し、その中で生きるためなのです。

現在、ACEF会員1,268名

- 205 教会
- 128 幼稚園
- 14 小学校
- 53 中学高校
- 23 大学
- 58 友の会

などの団体よりご協力ご支援をいただいています。



第39回ACEFスタディーツアー参加者

Aチーム(ジャマルプール地区)

1	荒谷 出	ARATANI Izuru	共愛学園高校宗教主任	高崎教会
2	井上 儀子	INOUE Noriko	ACEF事務局	浦和東教会
3	中島 有紗	NAKAJIMA Arisa	東洋英和女学院中学部高等部教員	田園調布カトリック教会
4	馬渡 雅菜	MAWATARI Mana	東京製菓専門学校洋菓子科	
5	齋藤 梨奈	SAITO Rina	青山学院女子短期大学教養学科	
6	中西 みちる	NAKANISHI Michiru	自由学園高等科2年	高崎教会
7	小林 七海	KOBAYASHI Nanami	共愛学園高校2年	
8	村上 可奈	MURAKAMI Kana	東洋英和女学院高校1年	三軒茶屋教会
9	有川 奈那	ARIKAWA Nana	横須賀学院高校1年	

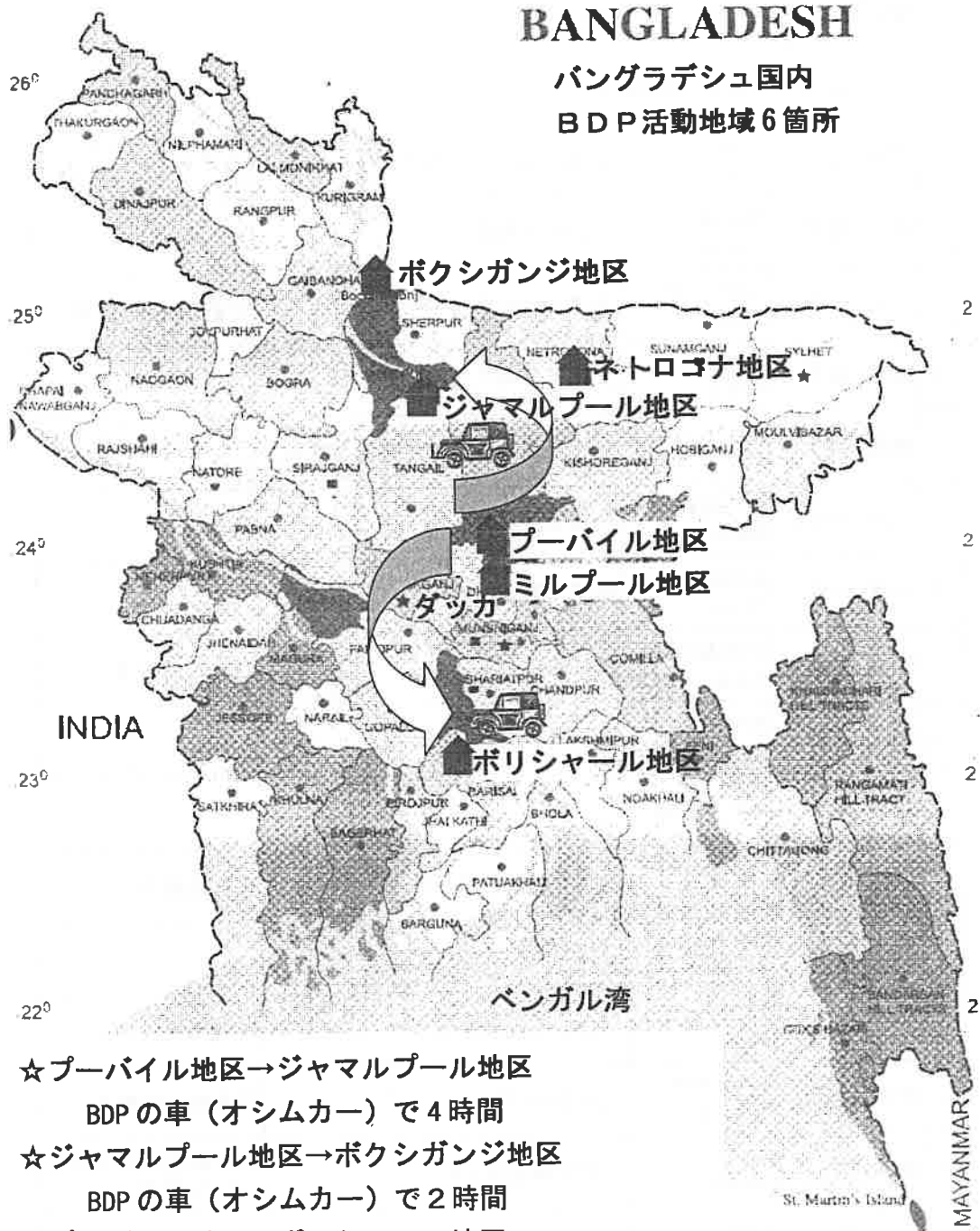
Bチーム(ポリシャール地区)

1	山口 旬	YAMAGUCHI Jun	横須賀学院小学校教諭	霊南坂教会
2	中野 宜子	NAKANO Yoshiko	主婦	
3	塚本 真理	TSUKAMOTO Mari	共愛学園高校教員	高崎教会
4	深澤 睦実	FUKASAWA Mutsumi	山梨英和高校2年	甲府愛宕町教会
5	見供 瞳	MITOMO Hitomi	共愛学園高校2年	福音伝道教団大間々 キリスト教会
6	安藤 百合子	ANDO Yuriko	東洋英和女学院高校2年	志木教会
7	浅葉 洋樹	ASABA Hiroki	横須賀学院高校1年	

BANGLADESH

バングラデシュ国内

BDP活動地域6箇所



☆プーバイル地区→ジャマルプール地区

BDP の車 (オシムカー) で4時間

☆ジャマルプール地区→ボクシガンジ地区

BDP の車 (オシムカー) で2時間

☆プーバイル地区→ポリシャル地区

BDP の車 (ニキルカー) で7時間 (フェリー1時間を含む)

第39回(2010年夏)ACEF スタディツアー日程表

Date	Time	Activities	
7/28	am	成田空港出発→pm 香港経由、ダッカ着、プーバイルオフィス到着。	
7/29	am	ラルクティー、モニプールBDPスクール訪問	
	pm	オリエンテーション	
7/30	am	Arong, New Marketで買い物	
	pm	フリータイム、メンディ体験	
チーム別		Aチーム (ジャマルプール)	Bチーム (カティラ)
7/31	am	移動	移動
	pm	自己紹介	
8/1	am	ボクシガンジへ。礼拝出席。	イサクリバカイBDPスクール訪問。
	pm	ガロ族のお宅訪問	
8/2	am	リキシャに乗って、モホンプルBDP スクール訪問。	ランデベルバーBDPスクール訪問。
	pm	ナルクリBDPスクール訪問。モクレス さん宅訪問。	水浴び
8/3	am	ロンガルジュラBDPスクール訪問。パ セツさん宅訪問。	シャッチモリヤBDPスクール訪問。
	pm	サリー試着。	Boat Trip
8/4	am	ビシュンプルBDPスクール (1)、 ハイヤットプールBDPスクール訪問。	バルクシBDPスクール、アンボラBDP スクール、カティラBDPスクール訪 問。
	pm	ビシュンプルBDPスクール (2) 訪 問、コミュニティディスカッショ ン。ホビーさん宅訪問。	サリー試着。カティラBDPスクールで カルチャーショー
8/5	am	移動	移動
	pm	A, B合流。カルチャーショーの準備など	
8/6	am	市場で買い物	
	pm	マザーテレサの施設を訪問、ヘモントさん宅訪問	
8/7	am	職業訓練学校、ショモルシールBDPスクール訪問	
	pm	カルチャーショー	
8/8	am	バーダン教会にて礼拝出席, wrap-up discussion	
	pm	最後の礼拝、プーバイルオフィス出発	
8/9	am	ダッカ発、香港経由→ pm 成田空港着	

A チームのメンバー

荒谷先生

英語万能! 皆のリーダー
半ズボン大好き!



・往年の
アコースティック
シンガー!!

のりこさん

たじろにそ命! いっも
場を盛りあげて
くれる、



ベンガル語
ペラペラの
お母さん。

ありさん

心優しく、しっかりした
美人教師。英語万能で
男前!!



頼れる
存在です。

まな

しっかり者のお姉さん。
いっも周りに



子供が
いっっぱい!
エビ玉子
カレー
やいし♡

りな

アクティブで 子犬たちから
大人気!!



いっも全カ、
みんなの
姉御!
そして、
ナイススマイル

みちる

大人っぽいから、意外と
甘党。



常に冷静
で、ツッコミ
上手!!

ななみ

たくさん歌って、
笑って、個性
豊かな
ノリノリ
ダンサー!



かな

しっかり者に見えて、意外と
天然。
笑いのテンポ
が2テンポ
遅い!!



あり

小さい体でよく食べる!
BUT. きゅうりは
苦手。
元気一杯。
意外と
毒舌。



ジャマルプールのスタッフ

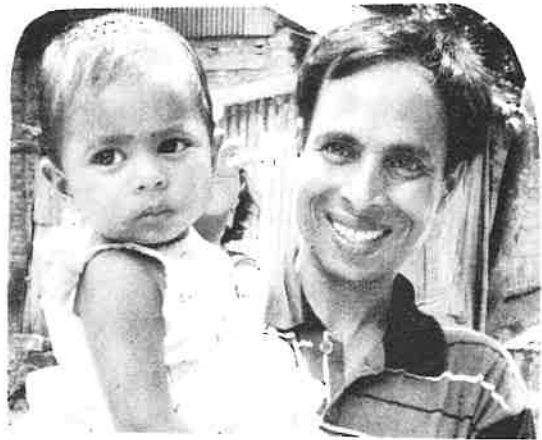


モクレスさん

いつも最高の笑いと楽しい時間を
くれました。緑のぼうしがい
よく似合う、ジャマルプールの
オーガナイザー。

モタレフさん

食べもののパ
なになると、いつも
山盛りごはんを
勧めしてくれます。
そして、写真に写るの
大好きです。



バセットさん

素敵な歌声と優しい
笑顔で私達を癒やして
くれる存在です。

娘さんとツーショット！
「オンジョナ」ソング最高♪

ホビーさん

「マイリッジ」

とても親切。

ナイス スマイルの
持ち主です。

とにか愉快な山口家系図(Bチーム)



祖父

WELCOME



祖母 おこ

誰よりも元気!!そして、
現役バレリーナなり。
洋樹のおばあちゃん。
ラジオ体操、神々



母 まり

Bチームのお母さんの存在。
というかお母さん!!ママって
呼んでいいですか?意外と
天然。心は永遠のseventeen
旦那さんとラブラブ♡



父 じゅん

Bチームリーダー。本当は1人身。
オペラと歌舞伎が大好き。ミニスカ
奴にTHE結婚できない男。恋バナ中に
女性陣に責められ通し。あわれ。
誰よりもバンクラとマンゴーを愛す。



長女 ひとき

大の子供好き!
容姿端麗なのに
たらしない。残念。
いい人(イケメン)募集!
彼氏をふり回すのが
夢。"デブは彼氏
向きで、ニキルは旦那
向き♡"という言葉
通りニキルのような人
との結婚を夢見る乙女



次女 むつみ

自称"しゃが座"の
お世話係。
女子部屋の衆母様。
そして、ものすごいイケメン。
趣味パッキング。
cool男推し!!
"へさ"という山梨弁が
かわゆし♡



三女 ゆりこ

しゃがしてそうで、
結構ゆるキャラ。
屋パツなday girl?
農村の子とちと泥おれで
遊んでいた。そして10才の
夫が"出来たらしい。
シェアリング中火暴睡。
洗たく機に閉まるデリカで
で女を困らす。1番の泣き虫。



長男 ひろき

"何だかんだ"と"神"が口ぐせ
のボクサー。姉とカミが苦。
カテラシアでひそこりたに。
"次回破壊屋に行ッ!"
inバンクラ 407カ
見た目よりイキ奴。
本番でセリフ 1439年!!



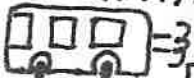
WELCOME TO KATHIRA



ビグルさん
スーパーバイザー。

一緒に池で泳いだ!
一生懸命、日本語を使
くれた! 奥さんは美人教師。
あた名 C-3P0 (洋樹命名)

カティラに行カティラ?



ダニールさん
オーガナイザー。
「ちょっと ちょっと」と言って
たくさんご飯をいれてくれました。
意外におちやめて、かわいい
Smileが印象的。



カティラ staff 紹介



ビグダラさん
ケアテイカー。
ご飯やお茶を
くれました。
「何おもれには
神親しみやすい!
lay 洋樹
あた名 耳毛さん



I LOVE カティラ
カティラのみんな、
thank you!

ジョンさん
スーパーバイザー。
就任1ヵ月目!
7ヵ月のbabyをもつ
1児のパパ。shy boy であた名は
リーゼントパンチ。似顔絵 ごめんね。



ボトリッパ中!! テイコカサ-
風サコー

pubail

いつもオシャレな
キラキラ笑顔で
みんなをHappyに
してくれました!!
値切り上手の
スーパーバイザー
い(w)ん

アンジェラさん

職業訓練校の~
機械科のTeacher!!
ライオンタにジェントルマン

アロカーンさん

職業訓練校の~
メカニカル。
ガロ族とメカがよく似合う!!
優しいレウリ君。

ロキオンさん

イービスさん

アリさん

小柄な
191111ダンサー。
おいしいチラーを
用意してくれら
る。バーバルオフィスの
1777カー。

得意な
日本語は
「皆さん~
ご飯どうよ~
(w)ノ」
茶目な、バー
バルオフィスの
スーパーバイザー

オセルさん

バーバルオフィスの
会計係。
スーパーバイザー

B D P S T A F F

& Dhaka



大きな伴に
大きな手!
なのにオチャメ♡な
暴走ドライバー。
Aチームと共に
ジャマルプールへ!
特校は7upの
いっき飲み!

BDPの
見守り
担当!

シンチヤンさん



ディ
コナン



ニキルさん



イクメンの
暴走
ドライバー!
Bチームと共に、
カティラへ
同行!

大学生を
見つめると
話さげずに
いられない!!
ワスチヤを
投げかけてる
のが女子生
BDPのボス!



アル
バートさん

アイマハロスさん



フル
ウさん

BDPのナンバー2!!
素晴らしいことも分かりやすく
語って下さいました!!



ヘ
メントさん

Aチームと共に
ジャマルプールへ同行!!
歌が大女子生ど
いつでもどこでも
ヘモント劇場開幕中!
子犬はミュージシャン。
BDPの教育長!

7/28

Aチーム

皆様々な期待や緊張、不安を抱えながらも、無事に成田空港へ全員集合！
11時に成田を飛び立ち、3時頃香港に到着・・・までは予定通りだったものの、
香港での雷雨によりダッカ行きの飛行機が飛ばず、香港で一同足止め・・・
何時間かのジベタリアンを経て、ここで一夜を過ごす覚悟もした矢先、
なんとかフライトが決定。
その後もフライト時間の変更などはありませんでしたが、無事にダッカの空港へ到着。

問題はその後の入国審査。

次々とみんなが入国審査を通り抜けていく中、ひとり最後にのこったとある少女の
不安げな表情はその後スタディーツアー中に幾度となく語り継がれるのでした・・・。

夜遅くにも関わらず笑顔で迎え入れてくださった
スタッフの方とともにプーバイルのオフィスへ移動。
その後簡単な自己紹介を聞き、この日は就寝となりました。



7/29

今日は荒谷先生による開会礼拝から、1日がスタートしました！
その後、ダッカのスラム街にある学校を訪問しました。1時間ほどのドライブの中で、みな窓から見る
初めての景色に戸惑いを隠せない様子でした。

スラムにあるダルクティスクール、モニプールスクールでは
子どもたちがたくさんのお花を手渡してくれ、歓迎してくれました。
スラム街の学校、とはいえども子どもたちの目はとてもキラキラとしていて、
訪問したわたしたちが元気をもらいました。
その一方で、スラムの環境の問題点にも多く気付かされました。
ダルクティスクールのすぐそばに広がる墓地には明らかに格差が見られ、
貧しい人のお墓はこんもりとした土のまわりを竹で覆っただけという粗末なものでした。

午後、数名が隣に住むビヤンカの家へ遊びに行きました。
ビヤンカの家にはテレビだけではなく、アイロンなどの電子機器も多くあり、とても驚きました。
庭の木になっていたグアバの実を、現地の人は皮ごとかじっていたのがとても衝撃的でした。

夕方からはBDPスタッフによるオリエンテーション。
たくさん質問も出て実りの多い時間を過ごすことが出来ました。

Bチーム

7月28日



9時に成田空港集合！ギリギリ遅刻しなかった。あぶねー。荷物を預ける！となったら、オイオイ、山匂の荷物多くない？23 キロ？！無事に通過したし、ま、いっか。飛行機搭乗！無事、離陸☆香港到着！はい、さっそくペットボトルを回収されました。香港の空港スタッフの無表情ビーム怖すぎっ…。香港は大雨。雷怖いよ。おカーさーん！天候のせいで、飛行機遅れてた。けど、無料食事券もらったぜい！ラッキー☆結局、2時間半を遅れで離陸。みんな、飛行機内、爆睡。そいゃそうだ。疲れたもん。バングラデシュ参上！思ってたより、暑くない。けど、空気悪い。車に乗り、トレーニングセンターへgo！ダッカの町を走行。車、速一っ！風気持ちいい☆超気持ちいい～…うおおおい！ぶつかって！！危なすぎる…何この運転。軽く死を覚悟したよ。力車のおちゃん多いな～こんな夜遅くまで働くのか。到着！布団だ、布団！今日は疲れたな。おやすみなさい～

7月29日



学校訪問。クラスにいられた。うわー、めっちゃ歓迎されてる！嬉しいとかより、ただただ驚いた。あたし、こんなに歓迎されていいの？授業をみた。全然分からない。まず、何の授業なの？みんな、真剣だなー。みんながベンガルの歌を歌ってくれた！わーっ、すごい☆って思ってたら…え？先生が何かをやってくれって言うてる…うわーどうしよう！そんな時、山匂が通りかかった！やまじゅん！と助けを求め、結局、幸せなら手をたたこうのベンガルver.を歌った。みんな、楽しんでくれたみたい。オリエンテーションでは、アルバートさんの「日本とバングラデシュの相違点ではなく、共通点を見つけてほしい」という言葉が胸に来た。いいこと言うじゃん。見つけてやる。

7/30

Aチーム

まな復活！！

昨晚のエビカレーがおいしかったという話を聞きつけて、異常なまでもエビカレーを食べたがっていました。

午前中はダッカのニューマーケットとアーロンという高級デパートにお買い物。ニューマーケットでは皆思い思いのサロワカミューズをBDPスタッフに値切っていただき、ご満足のご様子。そして根切り上手が女性であるという事実は、万国共通のようです。

またニューマーケットでは初めて直接物乞いの子供と接した人も多く、貧富の差を痛烈に感じ、どうしていいかわからなくなったと言う意見も聞かれました。

午後はBDPスタッフや近所の子供たちに、ヘナでメンディーを書いてもらいました。

みな日本に帰国したあとのことを考えず、されるがまま超絶技巧に息をのんでおりました。



7/31

今日から6日間、A,Bチーム分かれそれぞれ農村に向かいました。Aチームはジャマルプールへ。

移動途中の天候は残念ながら雨。

車の窓から景色を眺めていると、雨の中力車ひきのおじさんはビニール袋を頭からかぶり、必死に働いていました。

チャーを飲み過ぎたりなの為に寄ったガソリンスタンドのトイレが水洗トイレであったことには皆でビックリ仰天。



無事にジャマルプールについてからは温かいスタッフに迎えられ、のんびりとした午後の時間を過ごしました。

夜のシェアリングでは、豊かさとは何か、貧しさとは何か、と言うことをひたすら語り続けました。答えのない問いではありますが、皆で意見を共有することでたくさん考えさせられたすてきな時間でした。

B千ーム

7月30日



買い物！ヒューフー☆いやー、寝間着に困ってたから助かった～。てことで、NEW marketへGO！行く道には人がいっぱい！到着！女子軍はサロワカミューズを買いに！男子軍はルンギでも買いに行ったのかな？サロワカミューズは色々種類があって、悩みまくるかと思いきや・・・みんな思い思いに店員さんにサロワカを注文してたけど、お気に入りはないかなかなか見つからず・・・女子だから許して！お気に入りが見つかったら、値段交渉！店員さんタジタジ。無事購入！安く買わせてくれてありがとうね～その後Aarongでまた買い物。エレベーターがあった。感動☆

7月31日



カティラへ移動！移動時間7時間と聞き、萎えた。ニキルの運転・・・激しすぎないか？間違いなく激しいよね？その爽やかな笑顔と同じように爽やかに運転してくれないかな？でも、風サイコー！！フェリーに乗り、ガンジス川を渡る。渡るのに30分もかかるなんて、どんだけデカイの！フェリーに乗ってる最中の車内で食べたマンゴーは最高だった！スナックもおいしかったし。フェリーを降りたあと、ティコの恋バナを聞いた☆彼女とラフ・ラフの模様。このやろー。まあ、幸せになってくれたまえ。ハハハハ。カティラに向かうにつれて、どんどん景色が変わっていく。周り一面が、緑に包まれて行く。どうやら、ジュート畑らしい。女性たちが道端でジュートを削っていた。15時、カティラ上陸！目の前には、池。宿舎は想像以上に綺麗で、ベトナムだった！地元の子供たちとサッカー。単純に楽しかった。スポーツって言葉を超えるんだな。としみじみ思った。



朝7時。

ボクシガンジへ行くために外へ出ると、コーランの学校帰りの子どもたちにたくさん出会いました。

こんな朝早くから学校へ行くなんてびっくり!

ボクシガンジへ移動中の車の中で頂いた朝食が、食パンだったのにもびっくり!

そしていくら車内とはいえども、いつもと変わらずゆで卵が出てきたのにもびっくり!

長い長いドライブを経て、まずはボクシガンジのオフィスでお茶を頂いて休憩。

その後教会へ行きました。

教会は建物こそ今にも壊れそうでしたがとても素敵なところで、礼拝は力強く、言葉は分からなくても心に響くものがありました。太鼓と鈴とキーボードを使って歌われていた賛美の歌はとても新鮮で、スピリチュアルな雰囲気での礼拝でした。

その後ガロ族の方の住む村や小学校を訪問させていただいて、オフィスでお昼ご飯をいただきました。ここで食べたマンゴーが伝説の味となることはまだ誰も知るよしがなく...

帰りの車内も揺れまくり★のアトラクション状態で、

誰かさんが車の天井に頭を打ち付けて叫んで

おりました。

今日も平和な1日でした!



今日は力車に乗って、学校へ向かいました。

力車はとても揺れるので落ちるのではないかと心配していたのですが、

1人も落ちることなく無事学校へ!

学校ではいつものように教室に分かれて入った後、みんなに集まってもらってしっぽあてクイズをやりました。

ヘモントさんのお陰もあって無事盛り上がった後、こどもたちが劇を見せてくれたりと和気藹々な雰囲気で午前中が終わりました。

午後もう少し離れた学校へ行きました。

モクレスさんのお家にも訪問させていただきました。

焼きそばが出てきたときには皆とてもびっくりしていましたが

美味しくいただき、マンゴーや炭酸のジュースでお腹もふくらみ、

帰ってきてからの夕食でもニコニコなスタッフが大量にカレーを勧めてくれるのでまたお腹がふくらみ...

と、苦しいくらいに心も体も満たされた1日でした。



B千ーム



8月1日

朝から宿舎の前で地元の子供たちが待っててくれた。感動。たえられない。近くの教会へ子供たちと手をつないで歩いて行った。イケメン坊主に「あとでサッカー教えてやるよ」と言われた模様。ジャバニをなめんな。あたしだって、ガキでやったらお前より上手いんだからな。と思ったのは秘密。礼拝はいい意味で衝撃的だった。讃美歌の演奏は太鼓で演奏だった。愉快だった～。あ～あ、牧師さんも手拍子してるし。昼食。そういえば、いつのまにか、手で食べることに慣れている自分がいた。初めから抵抗はなかったわけじゃないけど、食べ方、上手になったな～あたし。イケメン坊主たちとまたサッカーとバレーボールした。やっぱ楽しいや。近所へ買い物に。女子はチュリを購入の模様。夜の劇の練習は山口総監督とティコ監督の目が怖かった。でも、ガキで劇やるってたのしいね。明日、劇が成功するともいいな。

8月2日

学校訪問！学校まで1時間歩いた～ティコにベンガル人の会話の定番。家族について聞かれた。自分の家族についてあんまり聞かれたことなかったから正直あせった。けど、家族について考えるいい機会になったな。歩いてる途中の自然は広大。むつみが沼にはまりました。ティコが彼女にとって思い出に残るだろうって爆笑してた。学校がヒンドゥー教だから、ヒンドゥーの神様の像があった。よくわかんないけど、すごい形相だった。山匂が憧れのゴーロンゴ先生にあたって興奮してた。いいな、会いたい人がいるって。怖いのバン、最高ー！バンのおっちゃん、頑張れー！怖ってきたら、子供たちが遊ぼうって言ってくれたけど、ごめん。疲れた。また明日ね。ってことで、遊ばずに話してた。主に山口さんの恋バナ。女性陣に責められ。慣れすぎたけど、しょうがない。愛の鞭だから！夜、屋上で見た、流れ星、綺麗。綺麗。



今日は朝食後、車でモランブールスクールへ行きました。

土地がとても低いところなので、雨が降ると水浸しになり、腰のあたりまで水に浸かってしまうそうです。この学校に通っている子どもたちのほとんどは仕事をしながら通っていて、たばこを作っている子どもが実際に作り方を見せてくれたりもしました。

またこの学校は東洋英和が寄付したお金で煉瓦造りの建物になるそうです。

その後バセットさんのお家へお邪魔させていただきました。

昨日のモクレスさんのお家訪問同様、たくさんのお茶やピタというお菓子、焼きそばや果物を頂きました。かの有名なバセットさんの奥さん、オンジョナさんやバセットさんの子どもにも会うことが出来ました。

次にシルティさんのお姉さんのお家にもお邪魔させていただきました。

普段はアメリカで生活しているというシルティさんの家族の方が、「いつかは分からないけど、世界中のみんながフレンドになれる日が来る!」と力強く言ってくださったことが心に残っています。

夜はまず、バセットさんが暴走!素敵な日本語で奥さんへの愛を語ってくださいました。

その後ヘモントさんとバセットさんが中心となって、満天の星空の下で歌合戦! 星座が分からないほどの星の数に圧倒されながら、ジャマルプールの夜を堪能しました。

今日はジャマルプールで過ごす最後の日、と言うことで、3つの学校へ行きました。

2つ目の学校のある村には外国人が入るのが初めてだということもあり、いつにも増して熱烈的な歓迎を受けました。大きなテントの下にはあふれんばかりの村の人が座っていて、わたしたちのために用意してくださった向かい合わせのイスは、まるで記者会見のようでした。

この学校は財政難であやうく壊されてしまうところをBDPが引き取り、なんとか今日まで授業が行われているそうです。教室の数も足りないのに、青空教室のクラスもあると聞いて、とても驚いたのと同時に改めて自分たちが普段とても恵まれた環境で勉強できていることにもっと感謝しようと思いました。

その後BDPのコミュニティで昼食を頂きました。

この場所は50年前までは森で、誰も住んでいなかったそうです。庭にはたくさんのフルーツの木があり、木陰で休んだ後最後の学校へと向かいました。

夜はここで過ごす最後の夜!というわけで、今夜も歌合戦が始まりました。

相変わらずテンションの高いバセットさんはそのテンションで最後まで歌い続け、ナチュラルエアコンのお陰でうとうとしたりと起こされて歌を要求される、という時を過ごしました。

夜中にもかかわらず、バセットさんの命令で炭酸ジュースを買いに行かされたモタレブさんは真っ暗闇の中を自転車に乗って消えていったのでした...

Bチーム



8月3日

学校訪問！子供たちの体操、半端ない！軽い気持ちでマネしてたら、だんだんハードになってきて辛くなってきた。けど、意地で最後までやった！めっちゃ汗かいた～。帰ってから、池に入って遊んだ！やっぱり、夏は泳ぐに限る、本当にこれだけは譲れない(BY 洋樹)。水マジ楽しかった～。チョー気持ちいい。神。睦、山匂の両名、階段に足をぶつけ、負傷。子供たち、泳ぐのうまさぎ……。あの泳力には圧倒された。ポートトリップ！ポートの上、ニキルのダンス、音楽隊の人たちの演奏、サイコー。最高一。神。夕日が壮太ってか、綺麗って言葉じゃ表せないくらい、すごくてBIGだった。また、乗りたい。そう思った。

8月4日



2校学校訪問した。帰り道、ティコにあと 10 分、あと 10 分と言われ、結局5キロ歩かされたらしい。ティコめ、トゥミ ミッタバティ(あなた、嘘つき)！サリーを着せてもらった！サリーって結構キツイんだね……。あだしが太ってるだけ？…。認めよう。そのせいだと。でも、お腹出しすぎじゃない？やっぱりこころ辺が文化の違いだね～。日本だとお腹とかを見せるほうがセクシーだけど、こっちだと足首を見せるのがセクシーとか、日本ではスリムな方が好まれるけど、こっちではお腹がふくよかな方が好まれるとか。サリーの他にメンティやマニキュア、化粧もしてくれた。ドン/バット！地元のBDPスクールのカルチャーショーでは、子供たちの歌や、鈴をいっぱいつけた女の子の踊りを披露してくれました。全部、うちのために準備してくれたんだよね～感動だわ。イケメン坊主も歌を歌ってた。知ってるメンツが出るとテンションあがるね。あだし、この子と友達！って心のなかで言ってた。



ついにジャマルプールとお別れ!お世話になったBDPスタッフと握手をして出発。
個性的な5人のスタッフに囲まれて、5日間健康で楽しく過ごせたことに感謝感謝、
オネークオネークドンノバット!!
電気も切れる、プーバイル以上に大変な生活だからこそ、人と人との繋がりを全身で感じた、
貴重な5日間でした。

長い長いドライブのあと、2時頃プーバイルオフィスへ到着!
その後は昼食をいただいてのんびりと過ごしていたところ、カティラからBチームも帰ってきました。
ジャマルプール以上に遠いカティラから帰ってきたBチームの人はへとへとでしたが、誰の顔も
キラキラと輝いていて、Aチーム同様充実した時間を過ごしてきたのだなあと感じました。

久々に皆が揃っていただく夕食はおいしくてとてもにぎやか★
シェアリングは屋上で行いました。



今日は久しぶりにA.Bチーム揃っての行動です!
美味しい朝食をいただいた後、ミルバザールへ最後のお買い物へ出かけました。
みんな思い思いにチュリ、スパイス、チャー、お菓子などを買って、両手がふさがっていました♪

その後休憩をはさんでランチ!・・・と思ったら、
寝ていたりな、まな、みちるは忘れられていて皆食事を食べていました(笑)

夕方になったので、マザーテレサの家へ向かって出発。
川を渡るからボートに乗る、と聞いていたので楽しみに行ったら、川岸につけられていたのは全員
乗れるの? というくらいの大きさで1人乗るだけでゆらゆら揺れるボート・・・笑
緊張のあまり皆の顔はかなり引きつっていましたが、実は足が着くほど浅い川なのだそうです。

マザーテレサの家は1979年に建てられた、路上生活のみよりがない、知的障害を持つ子どものための家だそうです。とても温かな雰囲気、シスターやそこに住んでいる人の笑顔が印象的でした。

そしてミッドナイト!
明日のカルチャーショーのためのリハーサルも兼ねて、ヘモントさん率いる音楽隊が沢山歌ってくれました。

Bチーム



8月5日

ついにカティアを去る。やだよ～、カティア離れたくないよ～、もっとサッカーしたかったよ～。車に乗り込み出発したとき、イケメン坊主が走ってきてくれた。全く来るのが遅いんだよ、バカヤロー。それからなぜか警察署へ。ティコが言っていた「チョット問題」ってこのことだったのね。「結構問題」じゃない？まあ、何事もなく、済んだからよかった。それからのティコは肩の荷がおりたみたいで、high テンション！大声でドヤルババ！歌ったり、KYな行動に走る。むつみが怒ってるからやめて～。そして、フェリーへ。乗船合戦でうちの名ドライバー、ニキル氏惜敗。あと1台だったのにね～。残念。本人も相当悔しかった模様。16 時前にフーバイル到着！正直疲れた。しんどいってことでお休み。

8月6日



近くのバザールでお買い物！みんな大量に買った。あたしは正直、暑さ故にギフアツ寸前だった。みんな、パワフルすぎる。特に女性陣。乙女パワーだね。その後、マザーテレサハウスへ。あたしが笑いかけると優しい笑顔を返してくれたり、手を握ったりしてくれた。アットホームな空間だった。シスターの「この子たちのために祈ってください」という言葉が心に響いた。もちろん、祈りますとも。帰宅後、なんかでかい音響の道具が運び込まれてるぞ？なんだこれ。あ、明日のカルチャーショーのためのか。なーる。・・・けど、こんなに大掛かいなの？もっとこじんまりしたのかと思ってた。夜はミュージックタイム！最後まで残ったのは、あたしと瞳と洋樹。ティコにいろんな意味で鍛えられたメンバー。最後まで付いていきますよ、ティコ兄さん。その後も、寝室にて延長戦。あたしはすぐ帰っちゃったけど、そのあとヘモントさんが来て話したみたい。あたしもヘモント教に入信したかったー。



今日は午前中に職業訓練校と最後のBDPスクールへ行ってきました。

職業訓練校は日本で言う専門学校のような感じで、パソコン科、機械科など3つの教室に分かれて授業が行われていました。

職業訓練校では直接就職につながる学びを実践していて、その活動を支えるBDPの活動は本当に社会貢献であると思い、感動しました。

帰りの車内ではなんとニキルさんがアイスクリームを買ってくださったのですが...

ばっちりお腹を壊しかけた者が多数★

そして午後は4時半からカルチャーショー!

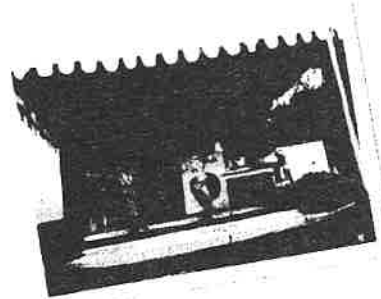
沢山の子どもたちがきれいな衣装を着て、たくさん歌って沢山踊ってくれました。

Aチームのソーラン節も、Bチームのよさこいも盛り上がり、オモルさんの息子も出演していたファッションショーはとても印象的でした。

最後の夜ということもあり、すっかり片付けられたカルチャーショーの会場で

スタッフによる音楽会!

バングラデシュで過ごす最後の夜だと思うと寂しくて、悲しくて、日本に帰ることが信じられないような、そんな気持ちで一杯の夜でした。



今朝は早めに朝食をいただいて、カトリック教会の礼拝へ。

とても厳格な雰囲気、さすがカトリックの礼拝!といった印象でした。

その後はみなパッキングをしたり、近所の子どもと遊んだり、スタッフの方と話したりと最後の1日を楽しんで過ごしました。

シェアリングでは皆が2週間を通して考えたこと、経験したことを語り合いました。

スタッフの人の思いも聞くことが出来、とても激しい雷雨の中とても充実した時間を過ごすことができました。

午後はディコさんやアルバートさんがギターを弾いてくださったり、オシムさんがバイクに乗せてくれたりと、いよいよ近づいてきた別れの時を感じさせないほど、めいっぱい楽しみました。

夜は最後に皆で輪になって、日本語とベンガル語でお祈りをしてから車に乗り、空港へ。

せっかく借りてきたレンタカーがパンクするというハプニングもありましたが無事ダッカの空港へ着き、スタッフと、そしてバングラデシュとお別れしたのでした。

Bチーム

8月7日

職業訓練校。あたしよりちょっとだけ年上の色々な身の上の人たちが一生懸命勉強してた。バングラデシュも日本と同じで手に職がないと就職が難しいみたい。同じ世代として共にがんばろう。昼寝しようと思ったら、何この音！音響のテスト？！土曜きしてるから！もう、やめて～うるさい。劇とよさこいのリハーサル。劇はティコ大監督様の厳し～い指導が入った。なのに、自分はぶっつけ本番で大丈夫とリハーサル参加せず。どうしたんだろと思ったけど理由はすぐ分かりました。はい。カルチャーショー。うちの劇、ティコがなんでリハーサルを渋ったか分かったよ。効果音やれたかったんだね。でも、1センスを疑う(BY山匂)無事成功をおさめ、最後にスタッフと歌った。やっぱ楽しい。夜、アルバートと話した。アルバートかっけー。考えてるスケールが違う。

What's is the most important point? (洋樹)

It's your job.(アルバート)

8月8日



ついに来てしまった、この日か。マジさみしー。おいしかったカレーともつにお別れ。いっぱい食べてやろうと思うも、失敗。だって、さみしくてノド通らないもん。みんなと記念写真。ほんとに帰っちゃうんだな～と思った。ヤバい、耐えられない。号泣。ティコに泣くなって言われたけど、無理。涙腺崩壊。やっぱり最後も歌。楽しかった！初日、汚いと思ってたこの空気も恋しくなってくる。ダッカ空港、到着。4時間後、飛行機に搭乗、無事に香港に到着。香港から成田空港へ。成田に着いたとき、ほっとした気持ちとさみしい気持ちになった。ほんとに終わっちゃうんだね。2年後行くとか行ったけど、正直行けるか分かんない。でも、あたしは忘れないから。ありがとう。

日付が変わってすぐ頃搭乗手続きが始まり、空港内を少しまわっているとフライトの時間になりました。予定通り飛び立った飛行機は、無事香港へ着陸。1時間弱という短い時間で乗り継ぐことが出来、あっという間に成田空港へ到着しました。

全ての荷物を受取りお祈りをして解散。
皆目に涙をうかべながら、参加者同士堅い握手をかわしてそれぞれ家路へとつきました。

のりこさんの日記から抜粋

「いつものことながら、あっという間の2週間でしたが、1日1日の濃い時間がよみがえってきます。特に印象的だったのが、デポジションを荒谷先生が上手に導いてくださったので皆素直に自分の気持ちを表現していたことです。自分の感じたことを軸に今までの体験などを交えてお話しくださったので、1人1人にどんどん親しみを感じていきました。皆さんに会えて本当にうれしく思います。バングラデシュで出会ったBDPの子どもたちのことをどうぞ忘れないでください。そしてACEFにつながっていきくださいね。」

@池袋の某喫茶店の一角。

机の上には大量の過去の記録、ノート、筆記用具。
一見やる気に満ちあふれている編集会議ですが、聞こえてくる言葉は「耐えらんねーよ」。

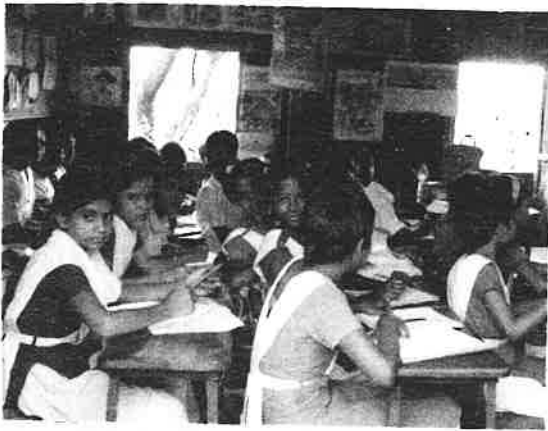
ゆり子が携帯で探してくれたカレー屋へ拠点を移すとすぐにのりこさんが登場。
本格的なカレーを6種類も頼み、ネパール人のカレー作りの様子を見ながらバングラのおいしいカレーを思い出していたのです。
山匂、のりこさん、ごちそうさまでした。笑

その後は隣の某喫茶店で4時まで会議。
なぜかこれから人の恋愛相談に乗る、という予定のある山匂は、こころなしかソワソワしているように見えました。
そして池袋駅にて解散。ひろきはさぞ、息子の帰りを待っていたであろうお母様とともに、自宅へ帰ったことでしょう。

ちなみに私は途中までのりこさんと一緒に電車に乗り、この場ではじめてバセットさんの子供が生まれたことを知りました。
遅ればせながら・・・という表現がこれ以上しっくりくることはないだろう、と思いました。

ダッカにあるスラムのBDPスクール

ラブレティスクール



モニプールスクール



一生懸命、授業を受けている
子供たち。子供たちの笑顔から
たくさんのエネルギーをもらいました。

主に、貧困層の子供が通っています。
内戦場もあり、ここで作られるハンドクラフトは、
日本に持ち帰り、ALFAが販売します。

プーバイルにある職業訓練学校

機械



電気



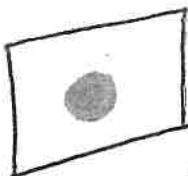
コンピューター



このように10かれています。

高校を卒業して入、大学を卒業して入、学校から
ドロップアウトしてしまっても自立できるように、手に
職をつけるために訓練をしています。

school in Jampuk



学校訪問をすると
子ども達が花道を作って
待っていていました!!
いつ来るか分からないのに....
ドンノバッド!!!



女の子達による
歓迎の歌とダンス!!
とても上手でした♡



↑
ベンガル語の教科書
なんて書いてあるのかは
さっぱり分かりませんでした....



↑ 噺家 ハモントさんの
『マングロー太郎』
ハモントさんが話している間
子ども達は微動だにせず
お話に聞き入っていました。



ベンガラの子も達とはとても勉強熱心!!
日本人も見習って欲しいものです.... (私も含めぞ)











カティラ学校訪問特集

by m

8/1 イヤリバカスクール

先生はお母さんかとして
くれたのかな大切な教科書。

ENGLISH FOR TODAY
Class 4

アッパル先生による英語の授業(class 4)
一歩ずつあてられても、しっかり音読!!
バンダラの英語の教科書に登場するのは
ほとんどベンガル人。英語をとおりて
文化・生活の向上を目指している
のでしょう。



みんなの前で少しも緊張せず
たぐさんのベンガルダンス&ソングを
披露してくれた少年。アッパル
先生もうれそう! 夕陽にも
百合子がこの少年から花輪を
いただきました!!

学校までの
道のりが遠かった
!!「後10分...」
の言葉にだまされ
続けた...が

ゴロンゴ先生の
授業は圧巻でした!

8/2

ミラノバカスクール



やまじゅんは
ゴロンゴ先生を
目指します!!

8/3 ミヤチモリヤ スクールには ビラさんの奥様のMistry 先生がいらっしゃいました



この学校では折紙を
折りまくりました。むっちゃんの
風船、ひまの鶴、よしこさんの
音の出る新聞紙など
大好評でした。

「かえるのウタがへ
きこえてくるよー
ゲロゲロッ...」
(ひろきくん
だいじょうぶ?)

8/4 1

バルクミスクールは
excitingでした!
子供達も!そしておティゴも!
日本には火山があって
ヒナノ所はカミで...!!



8/5 カティラスクールで Culture Show!!

小学校の先生方にサリーを
着せていただいて、さあ、カティラ・ショーに
いくはが...!! これでは
「シャットバティ」は上演不可能?!

目をみはるような民族ダンス!
頭にも 腰にも 足にも
金鈴が!!

8/4 2

アンボラスクールにはサテライトか?!
みんながサッカー観戦の
ため〜!!



☆☆ジャマルフルの子どもたち☆☆



←フロディック*フロミン*トリ

BDP オフィスの隣に住む、大家さんのお孫さん。3人とも目がクリクリ！

ジャマルに着いた瞬間から、アブナムキ？って話かけにきてくれました☆

みんなで遊ぶ→

BDP オフィスに集まってきたみ
と大縄、シャボン玉、ケンケンパ、
ル、折り紙でいっぱい遊びました
て争奪戦！！

強いものが勝つ！みんな、マナ！



ん
な
ポ
ー
★全



←大集合

村中の子どもたちが全員集まって来ちゃった
ってくらい大人数！！みんな一気に名前教えて
くれたけど…覚えきれない(；；)まだみんな
に会いたいな♪

おまけ→

バセットさんのお子さん！ハシダオ～(‘‘)
Aチームの疲れはこのかわいさに癒された～。
バセットさんもすっかりパパの顔！



Kathira KIDS 集合♡

いつも宿舎前で
「Sister!」と呼んで”
くれたり、花くれたり
ありがとう。99-♡

みんな、カチラ好き!



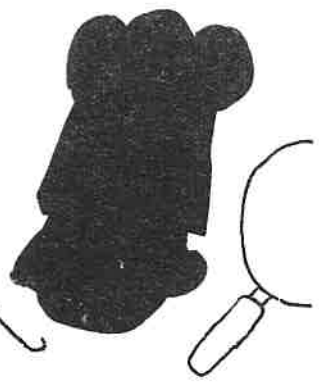
baby♡

girls
♡



Smile♡

Bangladeshi Food



おん〜



バングラの昼・夕食はカレー！！

毎日食べても飽きないおいしさで具材も色々。
ちょっと辛くて日本のカレーよりも水分少なめ、
ほんとにおいしかったです！！

バングラの朝の定番メニュー。

小麦粉で作ったナンのようなもの。

カレー風味のポテトのソテーやデザートバナナを
包んで食べました。

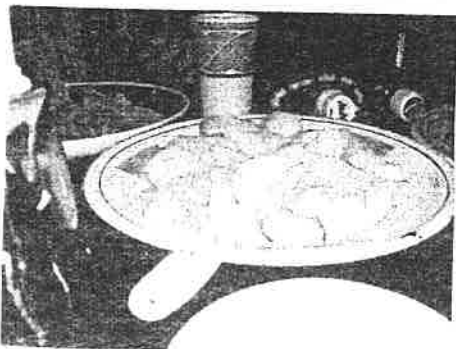
নান



চার



毎食後や Devotion の時など色々な時に出してくれる
あったかくて、心温まる“チャー”はみんな大好き！！
ミルクティーやジンジャーもある。



山旬、大好き！！マンゴー！！

本当に甘くて、一生分のマンゴーを食べた気分♪

日本ではめったに食べられないのでみんな満喫しました。

মুগু

Shopping

IN Bangladesh

バングラでみんなが買ったものを紹介！！

サロワカミューズ (600~1000Tk)



女の子にとっては必需品！！
デザイン豊富で洗いやすく乾きやすい
バングラの民族衣装。
ほぼ毎日、これを着て過ごしました。

レンギ (100~200Tk)



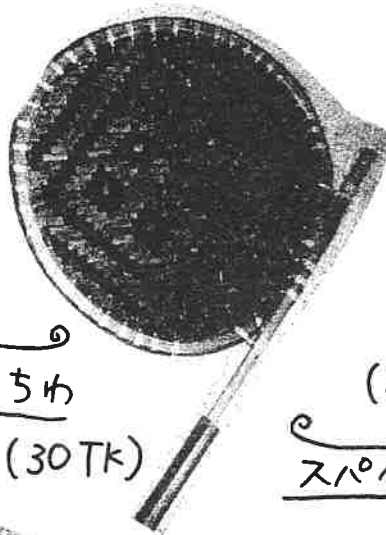
男の子の民族衣装。
布をおなかのところで巻くスカート。
サロワカと同じく色々なデザインがある！

日本へのお土産として....

ベンガルティ 茶葉



(32Tk)



うちゆ
(30Tk)

(20Tk)

スパイス



マングー・バー (290Tk)



ファナ・チュー
バングラ風
柿の種
(20Tk)

ACEF*alt*

39 member's

真相!

※編集係+@による、偏見の集合体と思われる。
(か、大概は根拠に基いた事実である!!)

Q1「ラジオ体操」がうまかった人

A. よしこさん♡ さすが、バレリーナ!!

Q2「マニアック」な人

A. 山句... もはや700の域!!
歌舞伎にクラシックにetc...

Q3「だじゃれ好き」な人

A. よしこさん、のりこさん

普通事をしてるがと
思いさや...

Q4「Xモ魔だった」人

A. みちる、ありさん

大きなスケッチBookに
計り知れない情報数... びび

Q5「エビカレーへの執着心が、
異常に強かった」人

A. まな

食われて
よかった
ね!

Q6「バナナLOVE」な人

A. ひろき

1食4本は
余裕でしょ?

Q7「いっぱい蚊にさされた」人

A. 荒谷先生

皆の分まで
さされてくれた!

Q8「よく寝る」人

A. 横須賀学院関係者。
(自称)

Q9「ギャップがあった」人

A. ひろき、あり

大人しそうに見えて
実は...!?

Q10「フロが長い」人

A. おつみ

Q11「名言大賞」

A. ひろき

「耐えん
和」
「神」

Q12「~~だらしない~~」「片づけられない女」

A. ひとみ、ななみ、ゆりこ

Q13「ベンガル人にモテた」人

A. かな

モタ00さんが
ゾッコンLOVEで周りは
ビヤビヤ... 8

Q14「恋バナが好き~~な~~」人

A. Bチームの女ども! by. 山句

僕をいじめないで

Q15 「歌がうまい」人

A. お姉様方!

得意分野は
談美歌です!

Q16 「ニキルさん LOVE」な人

A. ななみ

爽やかSMILEの
暴走ドライバー!!

Q17 「恋ネタ」がタラうな人

A. ひとみ

皆がくりのCUTEさや
子供にもモテモテ!

Q18 「恋ネタ」がムナうな人

A. 山匂

婚活FEIGHT

Q19 「デリカシーのない」人

A. ゆりこ

だって洗濯物(衣下略
by. 山匂

Q20 「いつも元気!!」な人

A. よしこさん

元気の秘けつは
しっかり食べる800k!

Q21 「車の中でワガママ」な人

A. ひとみ

ビーン♪

Q22 「変わった質問をする」人

A. みる

自覚なし(TT)

Q23 「キンカンの消費量が激しい」人

A. リな

近寄ると素晴らしい
防虫効果!?

1本!!
使っちゃ
いました

Q24 「モテモテ」なベシガル人

A. ニキルさん

Q25 「KYなベシガル人」

A. ディコさん

音響のセンスを
うたがいます...

Q26 「歌が好き」なベシガル人

A. ハモントさん、バセットさん

オンジョナソングは
永遠のレジェンド!!

Q27 「言いまちがえのタラうな」人

A. リな

「1人ぐらしのアリエッティ♡」
↑ 誰ですかー?!

Q28 「よく語った!!」人

A. まな

しっかりもののお姉さん♡

Q29 「荷物が↑↑コンパクト↑↑だった」人

A. あり

紙袋で農村へ...!!?

Q30 「言動が時々心配だった人」

A. まりさん

洗剤をのみものかと
思っていた!

Q31 「遅刻魔」な人

A. まな、リな、みる

遅刻を忘れられ
ていたことを
数々おぼろけ...

Q32 「笑いのツボ」が浅い人

A. カナ

そしてタイミングも
よく分からない!

別れても 好きな人、人 好きな国 バングラデシュ
はじけた私

中野 宜子

スタディツア参加の決断が果たして良かったのか、出発直前まで自信が持てなかった。バングラを訪ねてみて、その心配は全く吹き飛んでしまった。人々の暮らしは貧しくとも、心の豊かさや温もりがあった。かけがいのないものが、いっぱいあった。タゴールの〔わが黄金のベンガル〕とたたえたのが、はばかりながら実感できる。

ドヤルババ ケブラカバ アイナル カリゴルの熱い旋律がまだ耳に残り、私を揺さぶる。BDP スクールの子どもたちはどうしているだろうか？ 先生方もとても張り切っていた。あの暗く狭い教室で、子ども達の目が最も光っていた。誰一人目をそらさず、集中して耳をかたむけ、先生を敬い、勉強していた。私たちが教室に入っていくと、みんな笑顔で温かく迎え、席を空けてくれた。

カティラに異動した際のフエリーは、暑く車外に出られず、少々長くて辛かったが、カティラに着くと、静かな水の豊かな村でほっとした。宿舎の前に池があり、勇敢な男女4, 5人が飛び込み、気持よさそうだった。近くを川が静かな流れ、朝に夕に大勢の子ども達が集まってきた。ケモナチエンと人差し指と小指を付き合わせて、手を握り合ったものだ。カティラの川下りの夕景色は茜色に染まる絶景で忘れられない。同乗した若きミュージシャン達(BDP スクールの卒業生)の熱狂的な音楽に魅せられた。(イケメンばかり)

本を腕に抱え、すすっと歩く姿の何と美しく健やかな子ども達。国を愛し、村を愛し、家族に愛し愛され、素朴にひたむきに、前進しようとしている全てのものに、私の心の鎧が徐々にはがれるのを感じながら、遂にはじけてしまった私(一番心配をかけたメンバー)。また行ってみたいな、ベンガル語をもっと勉強してと。

ACEF, BDP スタッフ、ツアのみなさんに心から感謝する。

なぜ学校を訪問するの？

ACEF事務局 井上儀子

ACEF スタディーツアーの一番のメインプログラムは学校訪問です。スタディーツアー準備会では、学校訪問の際に教室での子どもたちとの交流や、全校生徒の前で見せる劇や紙芝居などのアイデアを相談し準備します。今回も様々な準備がなされ、それぞれ工夫をしながら子どもたちに喜んでもらえたことを嬉しく思います。

初期の頃は全校を訪問しようと、午前中1校、午後1校と、毎日毎日何時間も歩いて回りました。最近は学校数がどんどん増えてきたので全部は回れませんが、できるだけたくさん訪ねて欲しいというのがBDPの願いです。でもスタッフは私たちを喜ばせようと、また疲れてしまわないように、学校訪問の合間に、村の家庭訪問や、ボートトリップ、ヒンズー教寺院訪問、民族衣装のサリー試着など、バラエティーに富んだプログラムを組んでくださいます。また車ばかりでなく、時にはリキシャに乗ったり、リキシャパンに乗ったり、小さなボートを使ったりと飽きさせません。本当に細やかな心遣いに感謝です。

時には、どの学校もみな同じようなので、青空学級、竹壁校舎の学校、レンガ校舎の学校を見ればもう充分というメンバーもいたりするのですが、それぞれの村のコミュニティーのためにも学校を訪問することは、BDPにとって大きな意味があるのです。

現在、ジャマルプール地区にはBDP寺子屋小学校が19校ありますが、そのうちの6校を訪問しました。ハヤットブルBDP小学校は今までACEFスタディーツアーメンバーが訪問したことのない学校で、日本人を見るのは初めてとのことでした。村では日本人が来るということは一大イベントで、「日本人歓迎」と書かれた立派な門と大きなテントが設営され、記者会見(?)のようなセッティングが用意されていました。もちろん新聞記者ではなく子どもたちの両親ということでしたが、村の有力者も同席し、発言する順番などに気を遣っているようでした。日本についてのたくさんの質問が出ました。日本人の好きな食べ物、識字率、義務教育、結婚年齢、日本の文字、気候などです。私たちもお父さんたちに質問をしました。「奥さんが病気になったらお世話をしますか?」「ああ、もちろんしますよ。」との返事でしたが、「お料理もするのですか?」と尋ねると、「う〜ん、それは…、えーっと…」としどろもどろになってしまい、困惑顔でした。その中ひとりの人が立ち上がり、にこにこしながら「私はまず奥さんの頭を水で冷やし、部屋の掃除もし、市場に買い物に行き、やわらかいご飯を炊きます。」と答えられました。まだまだ男性が料理をするなんて、と考えられている村の中で、勇気ある発言をした男性に私は心の中で大拍手をしていました。

子どもたちだけでなく、大人たちも、日本人の私たちも、お互いにたくさんの新しい発見があります。一方通行ではなくお互いに知り合おうとする姿勢が大切なことを、改めて教えられました。

今回BDPスタッフよりこんな話を聞きました。「以前のメンバーで、学校訪問に全く関心がなく、市場ばかりに行っていた人がいて大変困った。」この方は高校教師だったのですが、学校訪問しても教室には一度も入らず、全く子どもたちや先生と交流しようとしませんでした。10年以上も前のことですが、このことをBDPスタッフがいつまでも覚えていくことに私はちょっとびっくりいたしました。

ACEFスタディーツアーの目的はたくさんありますが、学校訪問なしには考えられません。今後、このことに興味のない方は参加を遠慮してほしいと強く思いました。

「変わるもの、変わらないもの」(2010年 ACEF スタディツアーに参加して。)

共愛学園中高宗教主任 荒谷出

ACEF 第39回のスタディツアーを、一人も体調を崩すことなく無事に終了することができたことを心より感謝します。この旅は、私にとって、2度目のバングラデシュへの旅でした。12年前に初めてこの国を訪れた時に感じた衝撃と感動が、今回の旅でどう変化するのが自分にとっての一つの問いでした。

ダッカの空港に降り立った瞬間から、BDP スタッフが手配して下さったバンに乗り込み、喧噪と怒号の溢れかえる街中を走りぬけ、12年前と同じ町の匂いと埃、所狭しとせめぎ合う車のけたたましいクラクションの嵐、行きかう人々のいら立ちや疲れかと思えば、生活することへの強い意思と力を漲らせた視線のシャワーを浴びながら、私の持った第一の印象は、「ああ、12年前と同じだ…」というものでした。

もちろん、この10数年で、バングラデシュの社会は想像を超える変化を経験しながら年月を重ねているのも事実です。ミャンマーとの国境近くの町チッタゴンからバスで8時間近くの移動の予定をたて、そのまま空港へ行って帰国するはずだった12年前の旅の最終日、バスが故障してダッカの宿に預けてあったパスポートを取りに寄る時間がまったくなくなってしまった時、どんな手をつくしても絶対につながらなかったほどひどかった電話事情に、絶望的な思いとともに飛行機の出発時間数分前に空港に走りこんだことがあるのですが、今ではほとんどの人が携帯を手にも歩き、すぐに誰とでも連絡がとれるようになりました。ダッカ郊外の町々のバザールではほとんど見かけることのなかった女性たちの姿も、ごく自然にあちこちで見られるようになっていました。バングラデシュを毎年のように訪れる方々も、この10数年での劇的な変化をよく口にされます。それを知りつつも、自分の心の中に湧き上がる「同じだ…」という思いとの対話が、今回の旅を通しての私のテーマとなりました。

変わらないもの、それは訪れる私たちがすでに失ってしまったもの、あるいは失いつつあるものを豊かにとどめている人々の生活なのだろうと思いました。そうした失ったものの豊かさを目のあたりにして、近代化した社会の中に生きる自分自身の価値観、日本や他の先進国の在り方の本質をいやがおうにも見つめなおす時間を再度迫られて「変わらない…」という印象をもったのかもしれない。

同時に、この社会で変わりつつあるものの存在に、様々な場面で気づかされました。人々の生活や、この国の社会状況が前進していくことは、バングラデシュの人々の願うところです。便利で豊かな生活様式がもたらされることで失われるだろうものを、バングラデシュの人々に持ち続けて欲しいと願ったり、主張するのは、いわゆる先進国に暮らす私たちの傲慢かも知れません。

帰国する数日前、マザーテレサの開いた知的障害をもった人々の家を訪問しました。バングラデシュにたった一つしかないこの施設で、家族に見放されたり、路上に放り出された知的障害者の数が年々増加していることを知らされました。バングラデシュの社会ではこうしたもっとも小さくされた人々を、家族や村の共同体が支え、見守り、受け入れていくのがこれまでの社会では当たり前だったのだそうです。そうした人々の絆の深さが、訪れる私たちを惹きつけ、心を打つのだろうと思います。でもそうした絆が薄れ、本来人が生きるためにあった共同体、家族というつながりが失われていくにつれて、一番弱い、小さな存在である人々が路上に放り出されるようになってきていることを学んだとき、この社会の中で確実に変わりつつあるものを思わされました。

ジャマルプールの美しくのどかな町のバザールの街角にあるお茶屋さんで、BDP スタッフのヘモントさんと何度か語りました。貧しいバングラデシュの社会のなかでも、さらに貧しく学ぶ機会を持つことのできない子どもたちの未来を、教育を通して築いていこうというBDPの活動、そのビジョンを地域の人々と共有し共に努力することで、新たな絆を作り出していくことの大切さを熱く語ってくれた彼の言葉から、変わりつつある社会の中で、決して失ってはならないものをバングラデシュの社会に持ち続けていこうと努力する人々の存在も知らされました。

今回の様々な出会いを通して、ACEF がパートナーとしてバングラデシュの人々と歩みを共にしようとしていることの意義を確認させられました。参加した一人一人が、そのことの意味や、自分のかかわりを、この旅を始まりとしてこれからも考え続けていけることを願いつつ、筆を置くことにいたします。すべての出会いと学びに感謝。

友達と分かち合う

共愛学園高校教員 塚本真理

バングラデシュでの感動の二週間を終えた翌日から、私を待っていたのは日常の教員生活。久しぶりの夏休み登校日で、生徒達から「お帰りなさい!」「先生焼けたね」等と声をかけられる。ようし!まずは身近な生徒や先生達にどんどんバングラデシュのことを伝えよう!と写真やお土産を配り歩きます。

そしてその翌日は幸運にも、入学してくる中学生対象のオープンスクール。私が担当しているアジア研究会の部屋には、前日から生徒達が設営したフェアトレード紹介のブース、核廃絶を訴える千羽鶴作成のブース、難民・食糧・児童労働等の問題を訴えるブース、アジア学院やネグロス島キャンプの紹介のブース等々。その中でもひととき目立つのがエイセフによるバングラデシュ・スタディツアーの紹介のDVD(2006&2007 塚本潤一作成)と写真によるポスター!その間に立ち、私は我を忘れて、次から次へと部屋を訪れてくる中学三年生の親子をつかまえて、バングラデシュのことを熱く語ったのでした。

ドヤル・ババの曲に合わせてリズムを取ろうとする保護者のお父さんに、「アコーディオンとタンブラという太鼓に合わせて、夜は満天の星空の下で音楽が楽しめますよ!」とツアー勧誘。「お食事は三度のカレー」と書いてあるポスターを見て目を丸くする中学生に、「でも、一度も飽きないくらいおいしいカレーを作ってくださいますよ。朝のルティというパンを食べてほしいな。」とまたまた勧誘。キラキラ目を輝かせて授業を受け、そしてダンスを披露してくれている子供達の写真を見入っている中学生には、「子供達は教室に走っていくほど授業を楽しみにしています。そして多くの子供が代々受け継がれている歌や踊りを踊れるのよ。」それから部屋に置いてあったベストセラーの本「世界がもし百人の・・・」を手に取り、「このテレビ見ました!」と言ってくれた中学生には、「あなたは他の国に住む友達がどんな暮らしをしているか関心があるのね。すごいね。じゃあぜひ次は自分の目で確かめてほしいな!」とまた勧誘。

なんと、たくさんの写真と言葉で過去に参加した共愛生によって作られたそのポスターには、今年私がカティラで一緒だった女の子が写っているのです!まだ幼い彼女が。そして少し若いBDPのスタッフも同じ顔で写っています。とたんにバングラ・ホームシックにかかった私は、寸時を惜しんでバングラを語ってくれたスタッフを思い出し、「今私ができることは、見てきたこと、感じてきたことを一人でも多くの人に分かち合ってもらおうこと!」と任務を再開したのでした。

大自然のバングラデシュから帰ってきて、私の中で大きな変化がありました。それは物事をシンプルに考えるようになったこと。「同じ一つの地球に住む友達と何でも分かち合うこと」これを主軸に生きようと思います。せっかくスタディツアーに参加できたのだから、見たこと、感じたことを日本の友達や生徒たちに知ってもらうようにするのは当然のこと。そして、同じ地球に住むバングラの友達が、教室がなくて、先生がいなくて、教材が足りなくて困っているのだから、今自分が持っている物を分かち合うのは当然。自分だけが満ち足りて生きているのはおかしい状態です。神様は、私が出会ったあの先生達も、子供達も、そして私のことも同じように愛してくださるのだから、等しく生きていけるように、分かち合っただけの人生を生きていきたい!そんな計画を、今回はお留守番係の塚本潤一に話したところ、同じ意見が返ってきました。いつも心にあの青い大空と教室中に響き渡る先生と子供達の声を抱いて、残りの人生も頑張ります。エイセフの皆様、BDPの皆様の尊いお働きに心から感謝しつつ。

たわごととは知りながら

山口 旬

2年ぶりにプーバイルを訪れてみると、そこには新築相成ったそれはそれは立派なトレーニングセンターができていた。

プーバイルというところまでずっとSTの拠点となるベースキャンプだった。プーバイルのオフィスはベースキャンプがゆえに毎回ツアー全体の人数を収容するために人口密度が高い。その人数をまかなうためのトイレは3つ、水場は一つしかなく、井戸を皆で共同で使用するまさに助け合いを必要とする施設だった。毎日のシャワーなんぞは夜も更けてキャピキャピのおなごたちに先を越されると今夜はもうアカンとあきらめるしかないのであった。しかしそれは自分勝手にはできない、次の人のことを考えなければならない生活であった。

しかし新しいトレーニングセンターはどうだ。まずもって、広い。食堂も広い。ミーティングルームも相撲とれちゃうくらい広い。各部屋にトイレがありくみ置きの水じゃない。ひねればふんだんに水が出る蛇口あり、シャワーまで完備していつでも水浴びができる。おお、バングラに来てこんなにぜいたくなことがあっていいのか。食事以外は部屋の中にいてすべてが生活できてしまう。引きこもりだって可能だ。だが、なんというか、う～ん、これって喜ばしいことなのか。

我がBチームは今回の農村生活はカティラだった。カティラの宿舎は病院の建物でバスルームがあり井戸を自分でくみ上げる必要はない。ましてや様式の便器でこれも蛇口つき。そうするとカティラ組は以前は皆が苦勞していたポンプで井戸水をくみ上げるという経験を一度もしないで帰るわけか。ん～なんかなあ。寂然としないものがあるんだよなあ。

これまでSTといえば感謝ツアーだった。それも一杯の水に対してのありがたみを身にしみて感じることで、ああ我々が日本で当たり前に過ごしてきたことは決して当たり前の恩恵ではないんだと確かめることのできるものだった。食事の前に手を洗うことだって一人では難しく、お互いに桶の水を流しあって「ありがとう」「ドンノバット」の応酬だ。それがこんなに快適で便利な施設ができるとそういった感情をあまり抱くことなく楽しく過ごせてしまう。いや、実際楽しく快適でこんな楽チンなSTは初めてだ。いいのかな。

もちろんこんなこといったら現地の人にやなにいったんだと叱られます。おまえら日本で好き放題な生活しといてバングラには発展しないでほしい？ 勝手に昔懐かし郷里への哀愁なんぞされても困るわい。こっちだって電気ガス水道完備の快適生活したいに決まっとうが。

古いものを大切にす文化に対して文明とは古いものを新しくしていくもの。人は便利になれば何かを失う。文明が来るところまで来た感のある日本なんてケータイだろうがネットだろうがこれ以上どこをどう快適にする？ あとはもうタケコプターで空を自由に飛ぶくらいだろ。もう人間はこれ以上便利になってはいけないのだ。でないとSFじゃないが人類ほんとに滅びるぞ。そんな終末映画みたいな状況になったら真っ先にくたばるのはわれら日本人だろうな。

人はこれ以上便利になってはいけない。失うものが大きすぎる。でもそれは日本人の戯言。バングラはまだまだ発展している。どんどん発展している。戯言だけどこか寂しい。

バングラデシュからもらったたくさんの賜物

中島有紗

バングラデシュから帰ってきて、学校へ出勤すると、多くの同僚の先生方から「お疲れ様。バングラデシュどうだった？」と声をかけていただいた。でも、一言で表現するのはとても難しい。そこで、「とっても濃い充実した旅でした。」と答えてみたものの、いったい何が充実していたのか。何が濃い旅だったのか。自分なりに消化するには、まだまだ時間がかかりそうだが、日本での忙しい毎日に翻弄される前にじっくり考えておきたいと思う。

昨年度、私が勤務する東洋英和女学院は創立 125 周年を迎えた。125 年前にカナダからの宣教師によって創設され、戦争中も様々な苦難を乗り越え、キリスト教教育を根底に多くの生徒を育ててきた本校が、今度は「教育支援」という形で何か隣人の役に立てないだろうか…そんな校内の気運の中で今年度具現化されたのが、兼ねてから交流のあった ACEF のスタディツアーへの生徒派遣と活動への金銭面での「支援」だった。教員の派遣も検討すると聞いて、ぜひ参加したいと名乗りでたものの、実際はいざ出発するまでバングラデシュという国のイメージがあまり湧かず、不安でいっぱいだった。でも、自分の目で見、そこに住む人たちに会い、肌で感じたバングラデシュには、キラキラした笑顔や人を気遣う優しさや教育に真剣に向き合う人たちの熱い思いがあり、「支援」どころか、私は多くの賜物をもって、心の底から勇気づけられ、帰ってきた。

2 週間弱の滞在の中で、たくさんのお会いがあったけれど、特に私の印象に残ったことは二つ。一つは東洋英和が校舎の建て替えをサポートすることになった LONGALJURA SCHOOL を訪問し、そこで働く女性の先生方と勉強するたくさんのお子たちに会えたこと。東洋英和の教員として紹介され、先生方に「ドンノバット(ありがとう)」と握手を求められたけれど、正直言って、そんな風に感謝されるのは、なんだかすごく変な気持ちでした。金銭面での「支援」も大切だろう。でももっと大切なことは、こうして学校で働く先生たちや、そこで一生懸命勉強し、未来を切り開こうとしている子供たちを本気で応援していくこと、そこに思いをはせることなんじゃないかと心の底から気づかされた。思いを合わせて隣人として共に歩む気持ちがなければ、「支援」は本当の意味を持たない。

もう一つは BDP ヘッドオフィスのスタッフであるヘモントさんと出会えたこと。ヘモントさんは直前に家族にご不幸があったにも関わらず、ジャマルプールに同行してくれた。そして、訪問先の学校では、オリジナル版「桃太郎」を心を込めて子供たちに話して聞かせたり、私たちの訪問が少しでも子供たちにとっての刺激や学びの場となるよう工夫してくれ、教員としてとても勉強になった。また、マラリアに三度もかかりながら少数民族のために働いた経験についての話や、高学歴で多才な彼には様々な選択肢があった中で、教育の本質を考えて、BDP で子供たちのために働く決意をしたことなど、様々な話を通して、教育がいかに国の発展に不可欠であるか、その思いを語ってくれた。クリスチャンのヘモントさんとは、国境を越えて共に祈り、思いを分かち合うことができた。日本に帰る前日に勝手ながら「ヘモントさんは私にとっての先生です」と伝え、ととても嬉しそうに顔をし、「ここで見て感じたことを日本で生徒や同僚、日本の皆に伝えてください」と言ってくれた。その思いにぜひ答えたいと思う。

最後に、バングラデシュでのスタディツアーが多くの方の支えと祈りの中に無事行われたことを、心から感謝したい。

大好きなバングラデシュ

馬渡雅菜

「ドンノバット!!」「Thank you!!」「ありがとう!!」

私はバングラデシュで過ごした2週間、どれだけこの3つの言葉を口にしかた分からないです。多分今までに日本で言ってきた分を、2週間にギュッとまとめたくらい言っていたのではないかと思います。それほどバングラではたくさんの人達に支えられて日々を過ごしていました。しかもジャマルプールでの最終日、メンバーとスタッフ全員が一言ずつ喋る場面で私は伝えたい思いがたくさんあるのにも関わらず、うまく言葉に表すことが出来ませんでした。それは言葉の壁があったからだけではなく、あまりにも感謝の思いが大きすぎたせいで、そんな経験は生まれて初めてでした。

たしかにバングラデシュは世界的に見たら発展途上国であって、経済的にも決して豊かとは言えないのかもしれない。でも、心の豊かさはどんな国にだって引けを取らないと思います。だってあんなに素敵な笑顔を浮かべる人達の心が豊かでないはずがない!!

バングラで過ごす中、メンバーと「豊かさ」について何度も話し合い、結局、最後まではっきりとした答えは見つけられずに帰って来ました。けれど元の日常に戻った今、相手に心からの感謝を伝えられるか、自分が与えられた生活の中でどれだけ笑顔で過ごせるかが豊かさの象徴なのではないかと気付きました。現に目一杯のおしゃれをしてカフェでお茶をしている自分より、すっぴんで汗と砂ぼこりにまみれながら、子どもたちと全力でけんけんぱをしている自分の方が良い顔で笑えていたと思うのです。

バングラデシュで過ごした日々でたくさんの人の温かさを直に感じ、人は支え合って生きているんだなあと改めて気付かされました。2週間という短い時間では分からない部分、見えない部分は多くあると思うけれど、また帰りたいと思える場所であることは間違いないです!!

最後に、いつもメンバーみんなが気持ちよく過ごせるように気を配ってくれたBDPのスタッフはもちろん、毎日暑い中で美味しいごはんを作ってくれたマー達、そしてどんな時も溢れる笑顔で迎え入れてくれた子ども達・・・
もう一度1人1人と握手を交わして、3つの言葉を使って感謝を伝えたいです。

小さな世界

青山学院女子短期大学2年 齋藤梨奈

世界って大きいな。バングラデシュに行って日本に帰ってきて、改めて感じたことです。今回のスタディーツアーは、私にとって物心ついて以来、初めての海外でした。さらに私の周囲で、バングラデシュに行ったことのある人は少なかったため、完全な未知の領域でした。五感で感じるもの全てが初体験でした。

バングラに着いた翌日のオリエンテーションでアルパートさんが言った言葉がとても印象に残っています。『相違点』ではなく『共通点』を見つける』という言葉です。私は、それを聞いた時、共通点?!!っという気持ちでした。なぜなら、あらゆる面で日本と違っていたからです。言語はベンガル語、気候は熱帯モンスーン気候、道路に信号はないし、道はガタガタ、食事は手で食べるし、毎日カレー味、毎日停電、トイレは手動ウォッシュレット、シャワーは水しか出ないし…挙げたらキリがありません。でも、私は数日バングラで過ごして、BDP スタッフや子供たちと会話をする中で、気付いたんです。日本人が笑ったり、泣いたり、怒ったりするように、バングラの人々も笑ったり、泣いたり、怒ったりする。言葉以上のコミュニケーション方法がある。そんな当たり前のことに気づけたことが、私は本当に本当にうれしかったんです!!!私たちは、同じ人間で、同じ感情を持ち、毎日を生きている、これは一番単純だけど、一番大切な共通点なのではないでしょうか。これが、2週間バングラデシュで過ごす中で、自分なりに見つけた共通点です。

世界が大きく感じるのは、相違点に注目するからです。でも、共通点に注目したら、世界中にいる人間みんな同じ人間なはずです。世界は狭い、世界は同じ、世界は丸い、ただ一つって意味がわかりました。世界って小さいな～。



そのひとみに映るもの

見供 瞳

どうしてこんなにひとみがきれいなのだろうか？

どうしてこんなに笑顔がすてきなのだろうか？

私はテレビに流れていた発展途上国のドキュメント映像を見ながらいつも不思議に思っていた。その理由が知りたくて、子供達と触れ合いたくて、このツアーに参加した。

初めてのダッカでの学校訪問は楽しみと緊張で私の心の中はいっぱいだった。学校に着いて中に入り説明を受け、いよいよ2人組で各教室に入る事になったとき、私の緊張はピークに達していた。けれど、中に入り子供達が笑顔で迎えてくれた時、私の緊張は一気にほぐれた。『大きな栗の木の下で』を一緒に歌ったり、子供達から綺麗なお花をもらったりしていると、学校訪問の時間はすぐに過ぎ去ってしまった。スラム街の学校では、クラスに入るなり「こんにちわ！」と元気に日本語で挨拶してくれてすごく嬉しくなった。小さな机に何人も子供達が座っていて、私たちが入るとぎゅうぎゅうになってしまうのに、隙間を空けて席を用意してくれ、笑顔で手招きしてくれる姿を見て自然と笑みがこぼれた。教室を出て生徒のお家に招待されると、そこはまさにテレビで見たスラム街の様子が目の前にあり、なんだか分からない不思議な感情になった。

カティラに行くと子供達が毎朝お花をくれて、朝から温かい気持ちにしてくれた。英語で子供達と一緒に話すという訳にもいかず、慣れない片言の伝わるのか分からないベンガル語で話していたが、子供達の瞳が本当にキラキラ輝き、澄んでいて、いつも吸い込まれそうになった。

カティラでの楽しい時間はあっという間に過ぎてしまった。円になりスタッフとお別れをしていると、私の隣に2人の女の子が来て手の甲にキスをして微笑んでくれた。一気に別れるという悲しみが心に広がった。料理をしてくれたお母さん方にドンノバットと言うと、抱きしめてくれて涙があふれ出した。泣いていると、女の子が涙を拭ってくれて声をかけてくれた。その時の言葉は分からなかったけれど、心で繋がっていると思えた。

プーバイルに戻り、近所の子供達と遊んでいるとカティラの子供達を思い出し、恋しくなった。今度はこの子達とも別れなきゃならないと思うとすごく悲しかった。楽しい時間は過ぎるのも早く、お別れの時間になり涙ばかりが出て来て、たくさん言いたいことはあるのだけれど、ドンノバットばかり言っていて、それでも心は繋がっている気がしてならなかった。

バングラで過ごした日々は夢のようだった。今でも、子供達のあの笑顔、キラキラとした瞳が目の前に浮かんでくると同時に、「あの子達の瞳には何が映っているのだろう」と考える。STでは様々な事を学んだ。けれどまだ、子供達のすてきな笑顔・綺麗な瞳の理由を見つけられていない。だから、今度はその理由を見つけにまたSTに参加してバングラに必ず行きたいと思う。

バングラに行ってたくさんの人と出会えたことに感謝。ドンノバット！！

人生は難しい!?

中西みちる

プーパイルからジャマルプールへの移動途中、前を走っていたトラックにかかれていた文字に目が釘付けになった。

「人生をつくりあげるのは難しい」

日本でもよくある「流行り」のワンフレーズだったのかも知れないし、単に語呂が良かっただけなのかもしれない。

だが、この言葉は私の中で、忘れられない言葉となった。

バングラデシュでは頻繁に大洪水が起こり、そのたびに浸水や水没はおろか、時には家ごとながされてしまうということもあるようだ。

家作りは人生の設計と同じだという言葉聞いたことがあるが、せっかく労苦して建てた家も自然災害には勝つことができず、変わり果てた無残な姿へと変貌を遂げる。

彼らにとっての人生もそうなのか。

今、私の頭の中に浮かぶバングラデシュの人、現地で出会った BDP のスタッフや学校で踊りを披露してくれた子どもは、みんな笑顔が絶えなかった。

だがその笑顔には、様々な影が存在した。

ジャマルプールでたばこを作る少女に出会った。

1000 本ものたばこを作っても 10 円にしかならないと聞き、耳を疑った。

プーパイルに帰ってきてから、悲しい事実を聞いた。

あんなにも笑顔で私たちを楽しませてくれて、支えてくれていた人の抱えている問題は、現実的で、ただ悲しくて、悔しくて、そして何もできない自分は虚しかった。

バングラへ行き、自分がどれほど文明に飼いならされた人間か、という事を痛感した。

「人生をつくりあげるのは難しい」という言葉とは違い、私の日本で過ごすこの生活は、作り上げている、というよりも、溢れる物に囲まれて作り上げてもらっている、というほうがしっくりくるような気がしてならない。

何かを得ると、何かが失われてしまう。

途上国といわれる国に住んでいる人々を置き去りにして、大量の資源を乱用して富を得た私たち日本人が、「この自然や人の温かさを失ってほしくないから、豊かになってほしくない」だなんて言える立場ではないと思うが、バングラデシュに住む人たちが、安全に、自分たちは幸せだと思える人生を送れるように祈り続けたいと思う。

感謝をこめて

深澤 睦実

大勢の子供たちの笑顔がサロワカミュージズを着た私を囲んでいます。
私のお気に入りの1枚はカティラの学校で写したものです。今、バングラデシュで写したたくさんの写真を整理しながら、この夏の2週間を懐かしく思い出しています。

うす暗く、椅子も机も満足にそろっていない狭い教室で子供達は真剣に学んでいました。キラキラとした瞳で黒板を見つめ、先生のお話に耳を傾けていました。アジアで最も貧しい国と言われているバングラデシュ。確かにそうなのです。サンダルが買えずに裸足で数キロの道のりを歩いて学校に通う子供、かばんが買えずに紙袋に教科書を入れている子供もいます。紙袋は雨が降ると教科書まで濡れてしまいとても困るそうです。けれど彼らは一生懸命に学校に通いとても元気で明るいのです。私は“学ぶことの大切さ”を幼い子供たちから学び、エネルギーとパワーをもらいました。

この素晴らしい経験のお返しを私はどのようにしたらよいのか、研修も終盤を迎えるころずっと考えていました。するとその答えを最終日のシェアリングで、BDPのアルパートさんから教えて頂く事ができました。

アルパートさんは、“バングラデシュに来たというだけで終わらせてしまうのではなく、帰国後どう生かすのかがとても大切”とおっしゃっていました。私はこの研修で学んだ多くの事をいつも心の中におき、遠い国に住む彼らと、これからも関わっていきたいと強く思っています。

バングラデシュでの2週間、私たちを支えてくれたBDPスタッフの方々、いつも一緒に過ごしたツアーメンバー、共に遊んだ子供たち、またこの研修に送り出してくれた先生方と家族に、心から感謝しています。

ありがとうございました。

Head Head!!

安藤百合子

感想文で何書けばいいの？と山匂に聞いたら、みんなと違うことを書けと言われたのでみんなと違うことを書こうと思った。でも、みんなと違うこととはなんだろう？と考えてみたら結構難しい。私が感動したことはやっぱりみんなも感動してるし、“私だけ”というものはないように思えた。けど、私にも1つあった。子どもたちとガチでサッカーしたこと。ガチサッカーは誰もしてないでしょ？その事について書こうと思う。

ある日、地元のお姉さんたちと話していたら子どもたちに連行された。すると、1人の子どもがサッカーボールを持ってきた。もちろん、サッカー開始。子どもたちが英語分かる訳もなく、私がベンガル語分かる訳なく、ただ1つ私たちが通じたものは“Head”だけ。子どもたちが私に対して頭を指しながら、“Head”と連呼していた。私は小学校以来サッカーしてないし、ましてやヘッドなんてしたことなかった。子どもたちがボールを頭目がけて投げてきた。けど、すかった。何度も何度も投げてくれたけど、失敗。そしたら、子どもたちが頑張ってレクチャーしながら、教えてくれた。どうやらおでこに当てるイメージらしい。ボールが私に投げられた。うまく当たった。みんなが私以上に喜んでくれた。

それからというもの、繰り返しヘッド特訓。あら、私、泥まみれ。そのうち、ギャラリーが集まってきた。水たまりで滑ったらギャラリーのおじさんがピーサンを洗ってくれた。みんなが応援してくれた。本当に楽しかった。久しぶりに何かに熱中出来た気がした。結局子どもたちとは“Head”しか通じなかったな～。けど、単語1つだけで一緒に楽しめるんだ。やっぱり、スポーツってすごいなと改めて思った。

今度、遊ぶときは私が何か教えてあげよう。そして、一緒に楽しもう。何がいいだろう。剣道教えたいな。…無理だな。野球とかいいかも。まあ、とにかく。少年たち、いつか遊ぼう！ありがとう。タター!!

バングラデシュでの共通点を探す旅

共愛学園2年 小林七海

バングラデシュに行ってみようと思ったのは、発展途上国は心が豊かであり、先進国は物はあるが、心は豊かではないというお決まりのせりふについて、それは本当なんだろうか？とずっと考えていたから、それについて実体験してみたいと参加しました。

バングラデシュに着いたときは、夜遅くともダッカの街はほどほどににぎやかでした。初めてのカルチャーショックは、信号がないことでした。最初、高速にでも乗ってると思っていましたら、普通の道で大変なスピードで走りますし、道もがたがたです。今になって考えれば当たり前のことですが、着いた当初は、大変なカルチャーショックを感じました。

頭で想像してた世界と実際見る景色は、全く違っており、それは当たり前のことなのに、やはり自分の想像力のなさにがっかりしました。しかし、想像よりもはるかに素晴らしい国で、共愛学園と親の援助により見たことのない世界に、実際に行けた！という喜びは一生忘れられない思い出になりました。

また、BDPのスタッフACEFのスタッフいろいろな方々のおかげで、悲惨な思いや身に危険を感じることがなかった事も、感謝に耐えません。1人で行ったらあっという間に私なら...と想像するだけで怖いものがあります。

私は着いてから日本との違いばかり探していました。トイレが違う、道路が違う、食べ方違う...違う違う違う違う！それが嫌なことではなくても、無意識に考えている自分がいました。

そんな中、BDPの長、アルパートさんのおっしゃった言葉が印象に残っています。「違いを探すのではなくて共通しているものを探してください。」と言われたことです。この言葉によって、自分は上から目線で見いていたことに気がつきました。

その日から私の共通点を探す旅が、始まりました。私が見つけた共通点とは、マザーテレサの信念が根本にある知的障害者の施設に行きました。そこには、マザーテレサが2回も訪れているそうです。そこで感じたことは、あるメンバーは鉄条網で囲まれていたため、逃げないように監視されているような少し怖い場所と感じた友達もいましたが、私には幸せが満ち溢れていると感じられました。私はそこに30分くらいしかいなかったのですが、全ては分かりませんが守られていると思いました。そして、シスターが強く勧めてくれたこともあって、いつかまた行って、そこでお手伝い如果能たら...と心から強く思いました。また、私は日本でもそういう施設を見たことがあります。バングラデシュには、残念ながらそこしかありませんがでも日本と同じそういう施設があり平和が満ち溢れていたように感じ、とても安心しました。そして、どこに行っても皆同じ人間であり、みんな、努力しているし頑張っている、と言う事を感じました。

その反面、つらい思い、日本で生きていたら感じることもなかった感情の揺れ動きを感じました。それは乞食の人に会ったときの事でした。初めて見た時は、胸がえぐられるようなつらい経験でした。お金が欲しいというすごく執着した目。生きているのに必死な彼らに何も出来なくて...無力な自分を感じました。果たしてお金をあげることが、彼らのにとっていいことなのでしょうか？お金を渡したとして、それで私は彼らに出来ることすべてやったと思うのか、それとも現地でしたみたいに無視するのか、、、答えは見つからないままずっと考えています。お金を持った乞食の人も見たりました。現地の人々はお金を渡しているようです。とりあえずわたしが出した答えは、きちんとした団体(ACEF)へ祈りと願いをこめて継続的に寄付をしようと思いました。

バングラデシュで自分の無力さに嫌だと感じた事もありましたが、日本より素晴らしいと感じたものもありました。それは、教育に夢がこめられているということです。子供たちが、学校の授業に向かう姿勢を見て、私は恥ずかしくなりました。自分が、学校の授業に向かう姿勢と彼らの向かう姿勢は、180度開きがありました。キラキラ輝いて授業に真剣に受けている姿、つらい境遇の中でもがんはっている彼らに深い感動を覚えました。

贈りもの

村上可奈

バングラデシュから帰ってきて日常生活に戻った今、気がつくについ、バングラデシュの人々、生活状況、考え方、宗教、スタッフ一人一人の顔、子供たちの笑顔、メンバーと夜通し語り合ったこと等を思い出す日々が続いています。

毎日出会った、たくさんの子供たちの最高の笑顔は、私たちを笑顔にしてくれます。純粋に喜んでいる子供たちを見ているだけで幸せな気持ちになるのです。なんだか愛おしくなる存在です。

そして、スタッフは私たちのことをいつも気にかけてくれて、いつも最高の時間をくれて、こんなにも私たちの生活を支えて下さったことに感謝しています。言葉にできない感謝とは、こういうことなのだと感じました。

毎日会っていた子供たち、いつもパワーをくれたスタッフが恋しいです。言葉の壁があるのは事実だけれど、それを超える何かがあるな、というのも肌で感じました。

また、「学校」という場所、「教育」というものの大切さを改めて考えさせられ、BDPの活動は本当に素晴らしいと思います。

いくつものBDPスクールに行って、たくさんの子供たちと出会いました。かわいい彼らの笑顔の裏には、家庭の状況やそれぞれの生活、事情があると思うと考えさせられてしまいます。

バングラデシュは発展途上国だけれど、何でも揃っている日本が忘れかけてしまっている、人の温かさ、周りの人を思いやる心、純粋な心の豊かさがあると知りました。日本では感じることをできない、忘れてはいけない大切なものがバングラデシュにはあることを実感しました。百聞は一見に如かずとはまさにこのことだと思いました。私は、今回の旅で目に見えない贈りものをたくさんもらいました。多くの人に、先進国への旅だけではなく、是非バングラデシュに行ってもらいたいと強く感じました。自分の中で何か変わること、感じるものを発見するはずです。

ガチでありがとう

浅葉洋樹

始めにきっかけを作ってくれた先生、このツアーに行かしてくれた親父と母さん本当にありがとう。

正直に言うと、「バングラデ シュ」って聞いても「貧乏で熱い国」としか思わなかったし、そんな所に行って何するんだろう？そう思った。だけど「あっちに行ったら本気でいろんなこと考えるよ。」って先生に言われて、そのときちょうどいろいろ考えたり悩んだりしてたから、「いろんな事考えてえ」って思って軽い気持ちで参加した。

だんだん出発の日が近づいてきて、だんだん不安になった。

「あっちにはダチもいないし、トイレもヤベーって言ってたし、毎日カレーで食えなかったらどうしよう。」そんなこと考えて結構ビビってた。

でもバングラに着いたら、そんな考えブツ飛んだ。

俺は現地で、いろんな感情に出会った。

物乞いの人が間近でものねだってきた時に受けたショック、子供たちの何の混じりけの無い笑顔を見たときの感動、初対面なのに、すごい優しくしてくれたBDPのスタッフさんに感じた嬉しさ、夜にみんなで歌を歌ってドンちゃん騒ぎした楽しさ。まだまだ書き足りないぐらいいろんな感情を感じた。

この感情を書くだけだったら確かに日本でだって嬉しい時もショックな時も楽しい時も感動だって感じたことある。だけどバングラで感じたものはこっちのモノとは、比べ物にならないくらいデッカくて、ホンとに書くだけじゃ一億文のーも伝わらないと思う。あれは冗談ぬきで神だ。

俺はそんな、おっきくて大切なものを胸にしまって日本に帰ってきた。

そして日本に帰ってきてからずっと考えてる事がある。最後の日にアルバートさんが言ってた「大切なのは日本に帰ってきたらどうするか。」

それって自分にとって何なのか。ずっと考えてた。

そこでなんとなく答えにいきついた気がする。

それは、俺はこれから生きていくなかで、絶対に何かにぶつかる、それは勉強の事かもしれないし、将来の事かもしれないし、友達の事かもしれないし、家族の事かもしれない。その時にふっとバングラデシュに行って感じた感情を思い出して、そして本気で時間が許す限えて、恐れなくて自分を主張する。これだと僕は思います。

最後に bdp のスタッフさん達、acef のスタッフ、一緒に行ったみんな、本当にありがとう。

ことば

有川奈那

日本に帰ってくるといろいろなものに違和感を感じた。白い肌の人たち、誰とも目が合わないこと、クラクションの鳴らない道路、砂のザラザラ感のない床、熱く感じたシャワー。あれっベンガル人の感覚になってる！？と思ったけど、それほどバングラデシュで過ごした2週間は楽しい毎日で、何より濃かった。

でも、行く前は初めての外国ってこともあり、バングラデシュでの生活は不安だらけだった。食事、お風呂、水、会話…。そんな不安が吹き飛んだのは、二日目。初めてご飯を食べればモジャ！！また食べたいぐらいに。お風呂も入ってみれば、水が冷たいけどすごくサッパリしたし、水をそれほど抵抗なく飲めた。会話は一番苦労したけど、身ぶり手ぶりで何とか通じたかな？それでもみんなちゃんと聞いてくれたのが嬉しかった。

とにかくみんなやさしくて、「ドンノバッド」だらけの毎日だった。今まで短期間でこんなに感謝のことばを使ったことがなかったし、多分日本にいたら一生ないと思う。逆に日本では感謝のことばを言われる方が多かった。だから感謝しようと思っても、とっさに思ってるほどのことばが出てこなくて「ドンノバッド」になってしまう。それが心苦しかった。その時、「感謝される」より「感謝する」方が難しいと知った。「感謝される」身になると、人を見下すことを覚え、「感謝する」身になると、人のあたたかさを教えられる、そんなふうにした。

「感謝する」身になり、人のあたたかさを知る。今の日本には失われつつあることだと思う。「感謝する」となるとお金がからんできたり、逆にお金ですまされたり、心のこもった感謝のことばがなくなりかけてる。バングラデシュはみんなとシェアリングしたことと、からんでくるけど、日本みたいに豊かになると心は貧しくなるのかなあと、思った。バングラデシュは貧しい人々が多いけど、豊かな心は忘れてほしくない！！そんな思いが叶うことを願って、これからもバングラデシュに関わっていきたいと思う。

最後に、A・Bチーム、BDPスタッフ、バングラデシュで会った人たち、支えてくださった方々、本当にありがとうございました。！！

編集後記

※撮影：KANA



編集会議日程

1回目 8月4日 @ 池袋
2回目 8月30日 @ 事務局
私たち、がんばりました!

でも
お疲れを
もろいた
スリムシェイプ
楽しかったぞ。

メンバーの
協力もあり完成
しました。多くの
人に読んでもら
いたいぞ!

なぜか...!
編集長呼ばわれ
だった中西です。
単純作業が出来な
くて迷惑かけました。
遅すぎましたが
楽しかったです♡

副編集長
に認められ
た安藤です。
主にBチーム担
当しました!! 配
当がよかったです
と思います♡



Special Thanx!!!
→ → → →
山岡、のりこさん、中川さん
むつみ、ありさん
まりさん、まな、りな
ACEF事務局、カレー屋のおじさん
池袋のスタバ、ドトール
交番のお兄さん、横浜賀学院
のコピー機、そして神様。。。☆
← ← ← 2nd you♡



最強
目撃！
行かないと
また来ちゃうよ！

ハシコちゃん、
もう一回
行ってね！



Bangladesh に寺子屋を贈ろう

教育はすべての協力の基です。会員としてご協力ください。



会員募集

個人会員	年額1口	5,000円
団体会員	年額1口	50,000円
学生会員	年額1口	2,000円
一時寄付	随時	金額自由

郵便振替 00100-0-185540

特定非営利活動法人アジアキリスト教教育基金

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-26

TEL. & FAX. 03-3208-1925

E-mail: acef@acef.or.jp

<http://www.acef.or.jp>